



增補
頭書
新蒙圖彙
七冊

十五ヨリ十八ニ至

イ 3
1782
7



頭書増補創蒙圖彙卷之十五

蟲介

川谷の甲介の虫の類と云



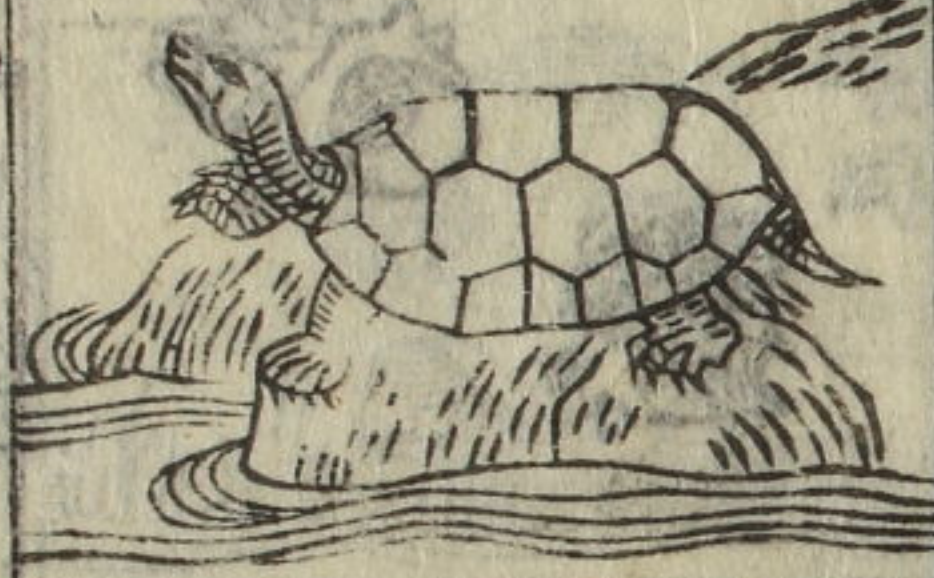
つむぎの四肢いさ

つるまのうたて
くまの血血刺と
この三十年末の
まんまの作

つむぎの四肢いさ

つむぎの四肢いさ
つむぎの四肢いさ
つむぎの四肢いさ
つむぎの四肢いさ

龜



龜



つむぎの四肢いさ

つむぎの四肢いさ
つむぎの四肢いさ
つむぎの四肢いさ

つむぎの四肢いさ

つむぎの四肢いさ
つむぎの四肢いさ
つむぎの四肢いさ

蟹



蟹



毛龜の陽気と
陰血とを
精氣とす
衰弱と作す



螺

螺の瘰癧結
核のうつり
瘰癧同



田螺

田螺の汁を
自ら痛と治す



蟹

蟹の一名を
甲といふが
蟹

蟹



蟹の血を
筋とす
筋とす
筋とす

蟹の汁を
て付て
蟹



蟹の汁を
て付て

蟹の汁を
て付て



螺の汁を
て付て

螺の汁を
て付て



螺の汁を
て付て

螺の汁を
て付て



螺の汁を
て付て

螺の汁を
て付て



蟹

蟹の汁を
て付て

蟹



蟹の汁を
て付て

蟹の汁を
て付て



蟹の汁を
て付て

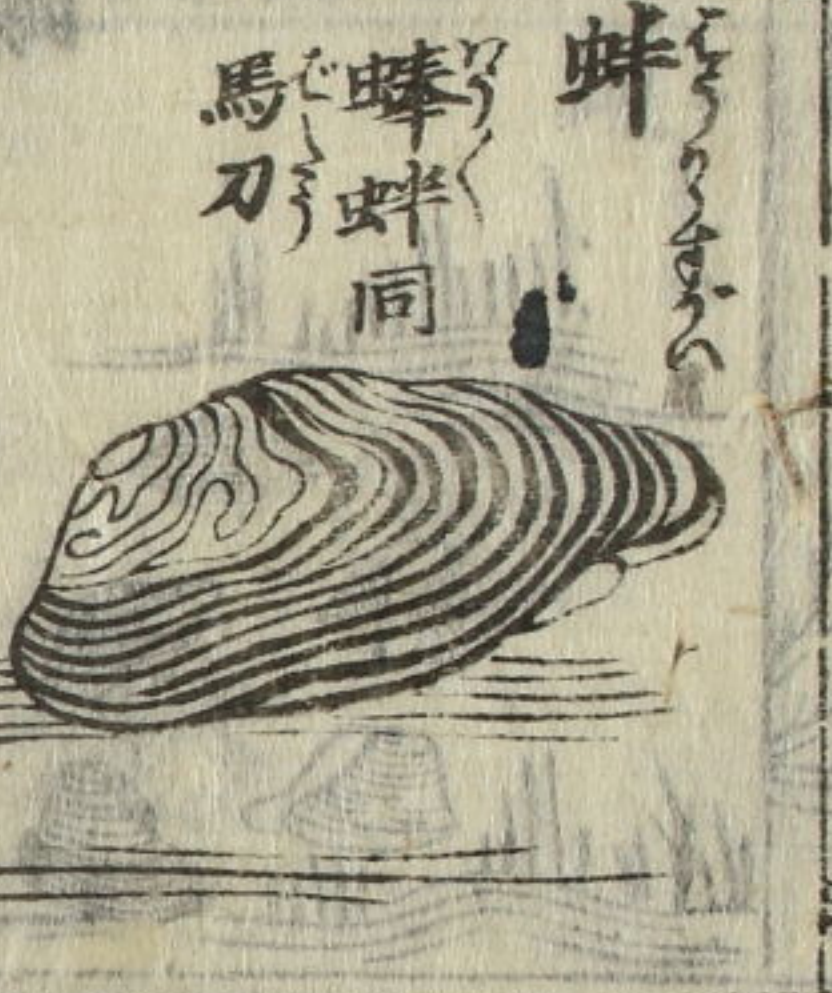
蟹の汁を
て付て



○蚌の殻を煮て
 湯に煮て
 毒を解く
 名陽遂足



○蚌の湯と
 毒とのを解く
 名陽遂足



○蛎の殻を煮て
 湯に煮て
 毒を解く
 名陽遂足



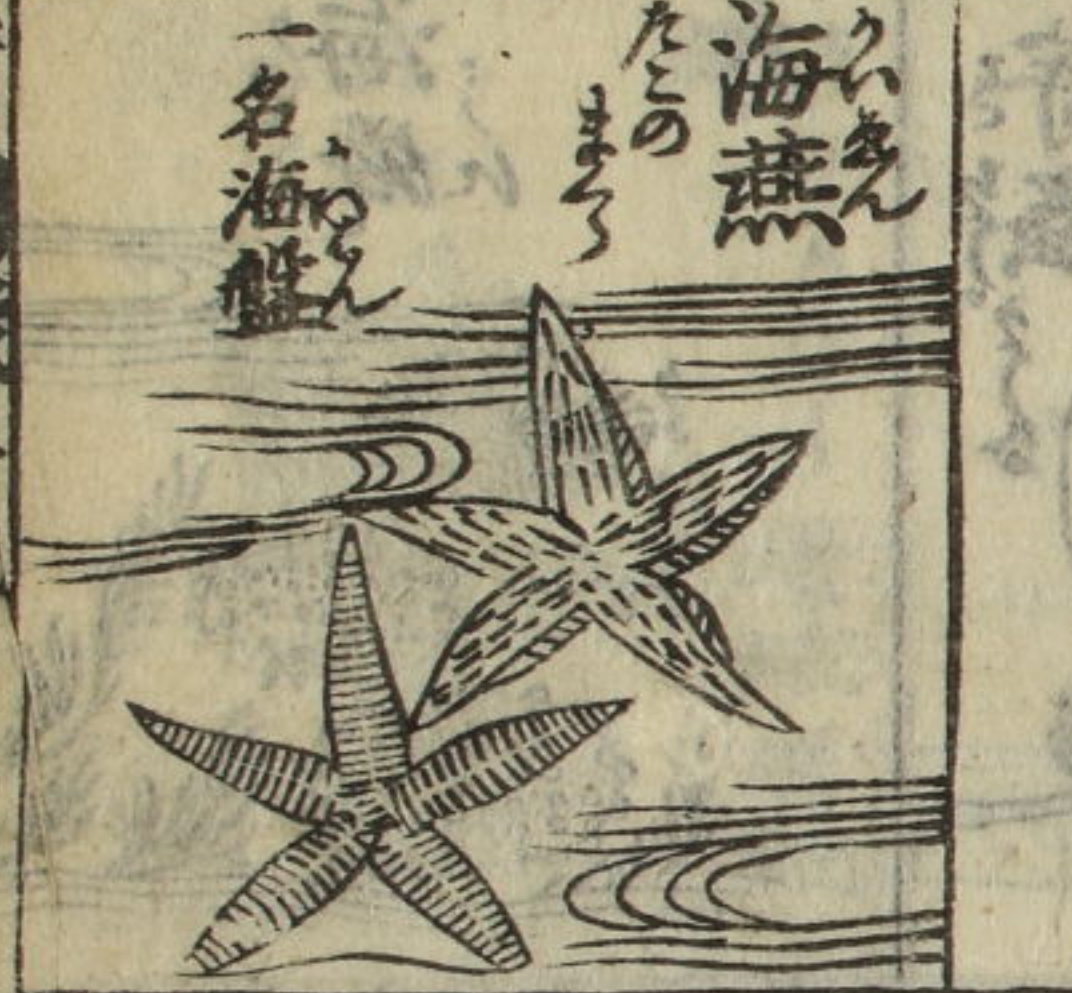
○車渠の神とや
 毒を解く
 名陽遂足



○帽貝の毒を
 煮て
 湯に煮て
 毒を解く
 名陽遂足



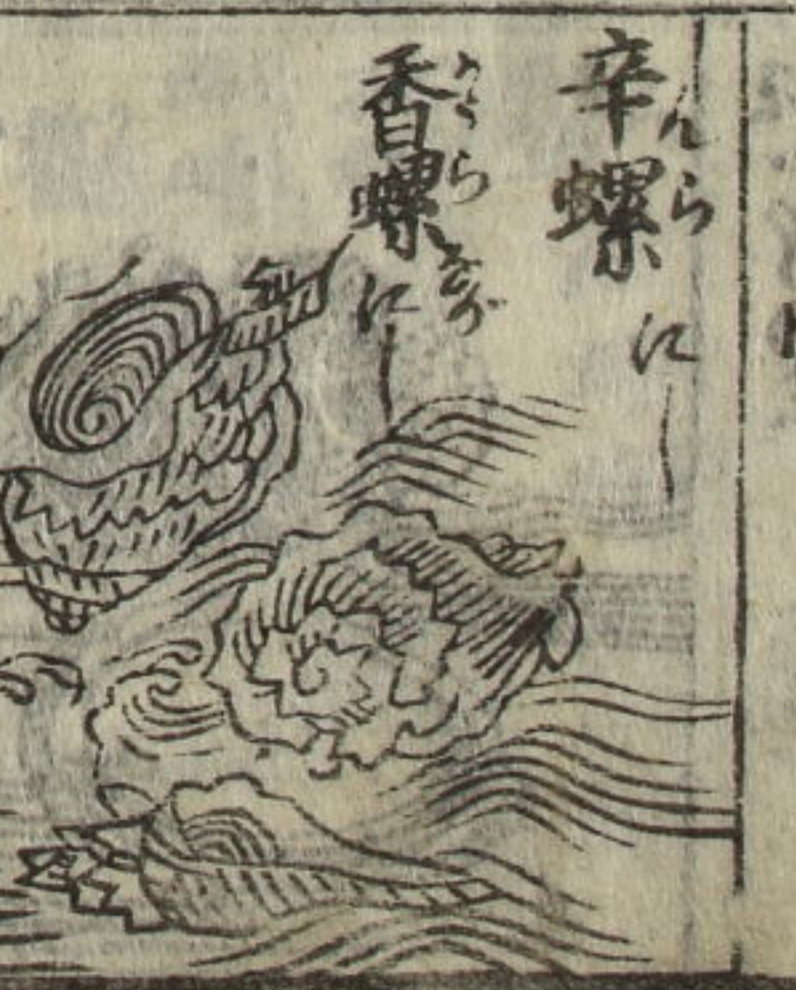
○海燕の毒を
 煮て
 湯に煮て
 毒を解く
 名陽遂足



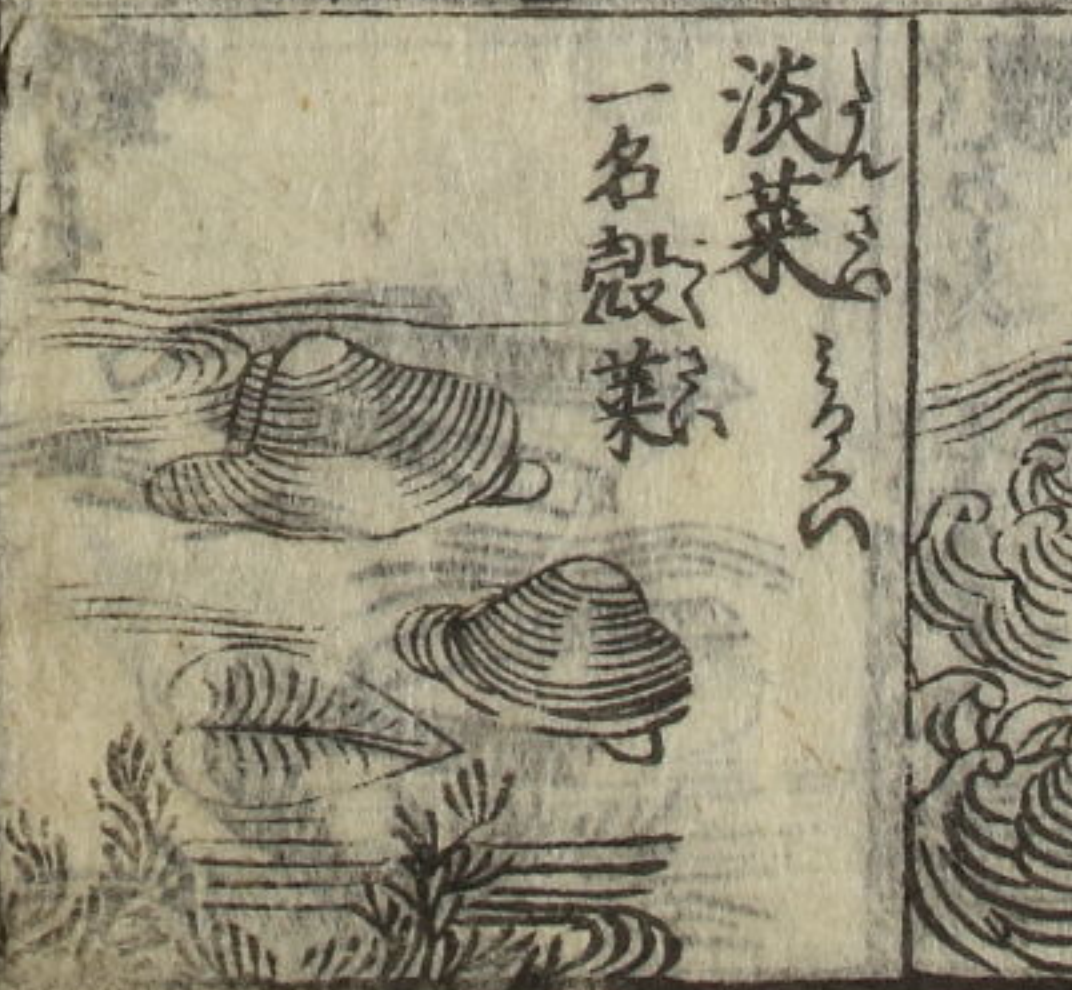
○玉珧の巧用
 毒を解く
 名陽遂足



○辛螺の毒を
 煮て
 湯に煮て
 毒を解く
 名陽遂足



○淡菜の毒を
 煮て
 湯に煮て
 毒を解く
 名陽遂足



○蛎の毒を
 煮て
 湯に煮て
 毒を解く
 名陽遂足



○蛇の毒を
 煮て
 湯に煮て
 毒を解く
 名陽遂足



○蝮の毒を
 煮て
 湯に煮て
 毒を解く
 名陽遂足



首列第15

三

海邊うみべ

○海邊の雑毒うみべのざつどく
つらつら

寄蟲きちゅう

○寄蟲の心志きちゅうのしんし
くさくさ

蕪う

○蕪の心志うのしんし
いて肩とらうを
掃とらうを
くさくさ

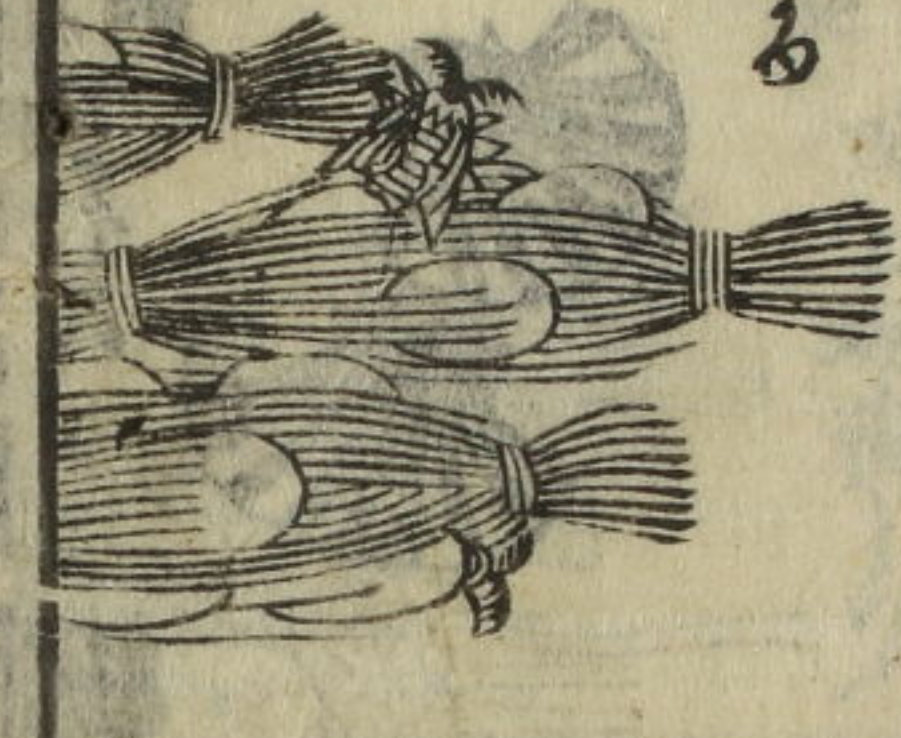
海邊うみべ



寄蟲きちゅう



蕪う



蠅へん

○蠅の天行へんのてんぎょう
くさくさ

蠅へん

○蠅の前足へんのぜんそく
くさくさ

蠅へん

○蠅の積血へんのせきけつ
くさくさ

蠅へん



蠅へん



蠅へん



蝸かき

○蝸の池澤草かきのいけさわくさ
くさくさ

蛙かき

○蛙の腹かきのはら
くさくさ

蛾かき

○蛾の蠶化かきのさくわ
くさくさ



蝸かき



田雞でんけい
水雞すいけい
同

蛾かき



蠅へん

○蠅の積血へんのせきけつ
くさくさ

蠅へん

○蠅の積血へんのせきけつ
くさくさ

蠅へん

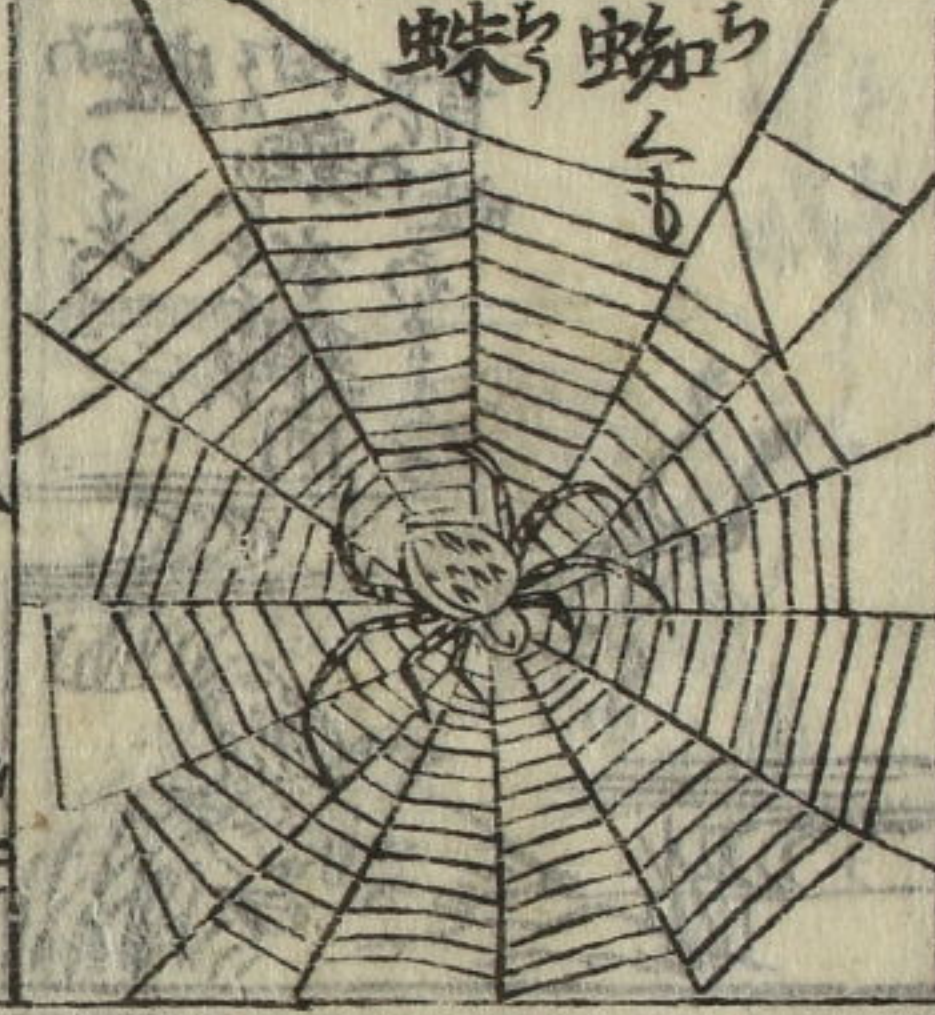
○蠅の積血へんのせきけつ
くさくさ



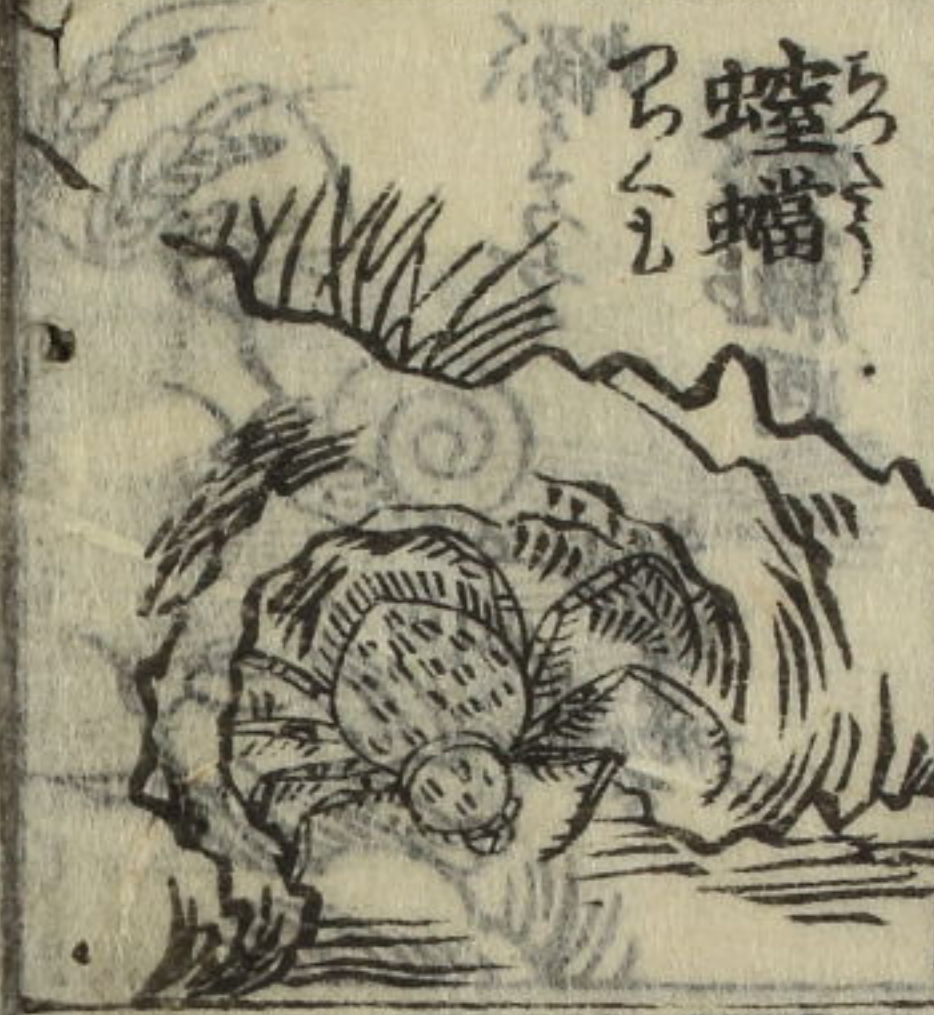
○蝶ハ蚕の化也
 ありの又小蚕化
 して蝶となり
 蝶ハあけし胡蝶
 蝶野蛾同



○蜘蛛ハ節の
 くもと花蜘蛛し
 りのりさくくと
 蟻子と云いりの
 太臭くりと云わ
 こといふはさり
 蟻蟻らと



○蟻蟻ハ土の
 うん生も一名
 蚊蟻らと云わ
 いふはさり



○蜂ハ蜜の化也
 して蜂となり
 尾より鋒のし
 して蜂となり



○蠶ハ糸を吐
 三十八日一三
 起二十七日
 老黄帝の元
 陵氏より元
 年をきて糸を吐



○蠶ハ糸を吐
 木中に吐く
 うん糸と云
 糸と云は蟻
 糸と云は蟻



○蟻蟻ハ土の
 うん生も一名
 蚊蟻らと云わ
 いふはさり



○壁鏡ハ壁中
 に生も一名
 鏡と云は壁
 鏡と云は壁



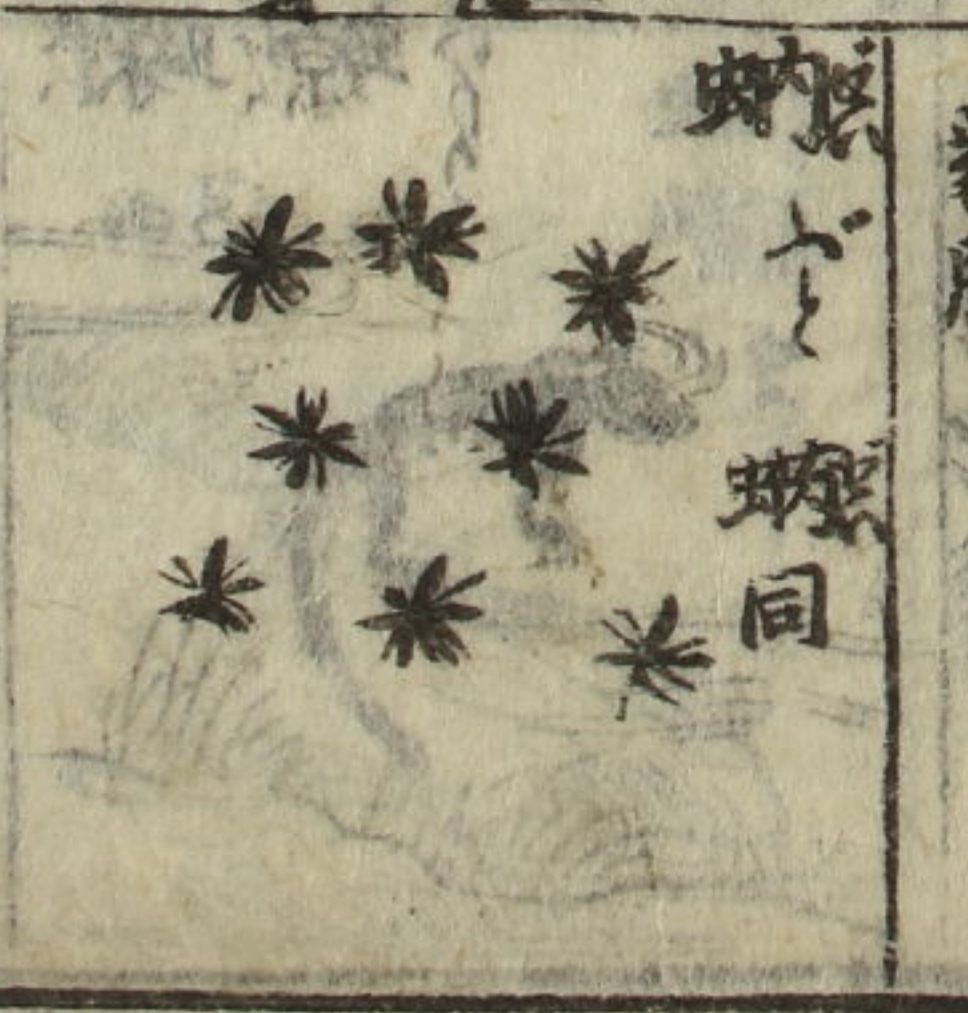
○蟻蟻ハ土の
 うん生も一名
 蚊蟻らと云わ
 いふはさり



○蟻蟻ハ土の
 うん生も一名
 蚊蟻らと云わ
 いふはさり



○蟻蟻ハ土の
 うん生も一名
 蚊蟻らと云わ
 いふはさり



○蟻蟻ハ土の
 うん生も一名
 蚊蟻らと云わ
 いふはさり



○蟬 八音の
白魚の一名
魚の俗名
魚の俗名

○蟻 土の穴
土の穴
土の穴

○蟻 土の穴
土の穴
土の穴



○蟻 土の穴
土の穴
土の穴

○蟻 土の穴
土の穴
土の穴

○蟻 土の穴
土の穴
土の穴



○蟾 蛤の頭とガ
腹をくくせ
腹をくくせ

○蝦蟇 蛤の頭とガ
腹をくくせ
腹をくくせ

○蚪 蚪は水中に
生くと流りの魚
生くと流りの魚



○蟾 蛤の頭とガ
腹をくくせ
腹をくくせ

○蟾 蛤の頭とガ
腹をくくせ
腹をくくせ

○蚪 蚪は水中に
生くと流りの魚
生くと流りの魚



○蚯蚓の五穀を
くわくして何仲
たんに蟄結し
われいであら
とたの意あり



○蜈蚣の世を黒
くみどり足あり
く腹炎こまま
うらみの鳥踏の
尿入大蒜と名



百足



○蜻蛉六足の
ついで交り生し
て交り死をん
で蛸とりらふ



紺蚕



赤卒



○百足は長く大
すくすく蚯蚓の
く紫黒色あり足
かんで百より
一名馬蟻

○蜈蚣はくま
蜈蚣はくま
くまはくま
くまはくま
くまはくま



○蜘蛛のいんた
あつちをいす余
人の耳に入ると
後脚をいんた



○蜘蛛のいんた
あつちをいす余
人の耳に入ると
後脚をいんた



蜻蛉

紺蚕

赤卒

蜻蛉

○蜘蛛の一名と
黒蜘蛛の一名と
上に生くと人
世にふれらる



○蜘蛛の樹上
生をいす指し
て及ぶとらふ



○蜘蛛の樹根
の葉のうちに生
くと及ぶとらふ



蜻蛉一名を

蜻蛉一名を
蘇斯の蟲

蜻蛉一名を

蜻蛉一名を

蜻蛉一名を

蜻蛉一名を

蜻蛉一名を

蜻蛉一名を

蜻蛉一名を



蜻蛉一名を

蜻蛉一名を

蜻蛉一名を

蜻蛉一名を

蜻蛉一名を

蜻蛉一名を

蜻蛉一名を

蜻蛉一名を



子孫の類水中
に子孫して子孫
多子孫の類
一名釘倒虫



改蟲

改蟲一名
蚊ガ蟲と云ふ木
中に生るる蟲
うらやう



郎君

郎君
相忌子同



斑蝥一名を
あり車野のあ
やんと云ふ斑蝥



馬車

馬車
大なるものなり
さうし車野に
生る



叩頭

叩頭
叩頭一名を
叩頭一名を
叩頭一名を



蛇の人の後中
 同脾胃の湿
 蛇の生

蛆

蛆の腐肉の
 肉の生を
 同魚類畜類の
 肉の生を
 鮮の生を

蟹

蟹の蛆

蛇



蛆



蟹



銀蛇の大を
 の生を
 又金蛇の生を

養虫

養虫の一名を
 木螺の草虫と

木虱

木虱の竹の
 木の生を
 の生を
 色の生を
 生を

銀蛇



養虫



木虱



兩頭蛇

の指の
 一頭は口目
 の孫叔教
 蛇の一名

兩頭蛇



岐首蛇



殼



殼



殼



殼の生を
 の生を
 右の生を
 明の生を
 殼の生を
 有の生を
 之の生を
 之の生を

土盛

○土盛の一名
おのうらに生る

水馬

○水馬の一名
水の上を歩く水
るれのもふと
すくろ四脚を

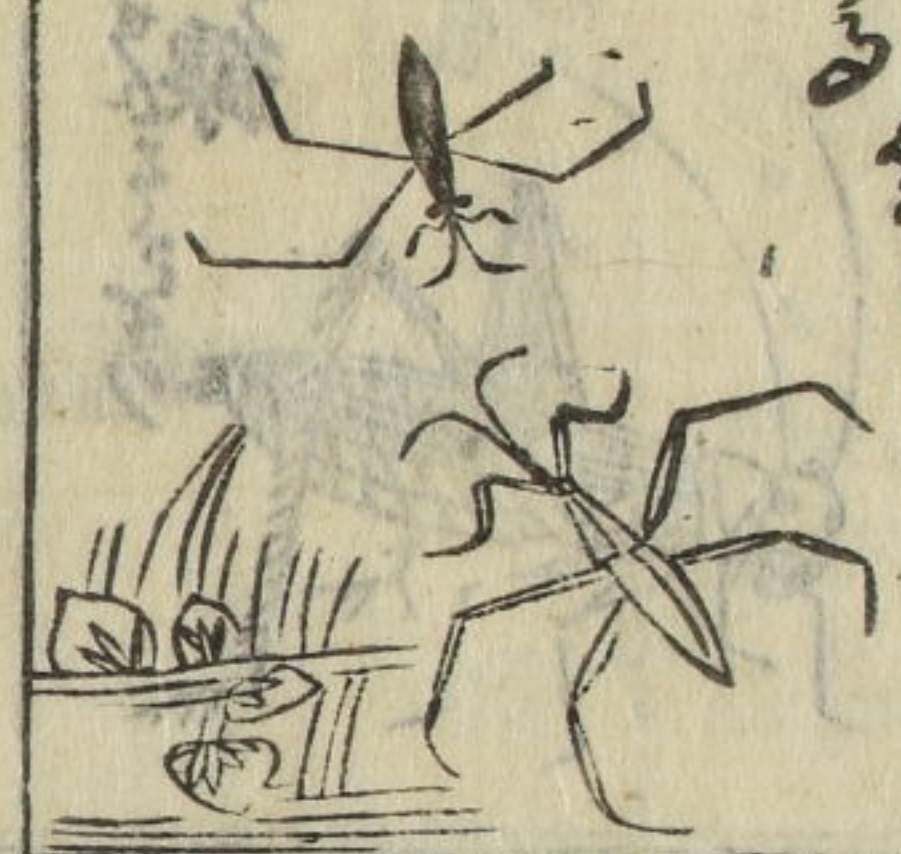
金鐘

○金鐘の一名
金鏡兒とも月
鈴児ともふ

土盛



水馬



金鐘



○氣蕪の一名
夜つとて後して

○滑蟲の一名
行へれりふれり
氣いり

滑蟲

○滑蟲の一名
蜚蠊と云ふ海どの
下に舞い垂れり
にてりやから青

竈馬

○竈馬の一名
竈雞とも云ふ
脚長く竈の上
を穴を



滑蟲



竈馬



水蚤

○水蚤の一名
水の中を歩く
の目筋

蛤

○蛤の五月に生
る

蠶

○蠶の五月に生
る

水蚤



蛤



蠶



雀糞

○雀糞の一名
鳥の糞

吉丁虫

○吉丁虫の一名
名に甲れ下
のつとてわり
の

金龜

○金龜の一名
五六月蔓草の上
に生る



雀糞



吉丁虫

金龜



蠶 蠶の木上

蠶の木上

房とらふ今のみ

卵がうらうら

蛭 蛭のいひ

こころあつらひ

いりしむえ

截こもす

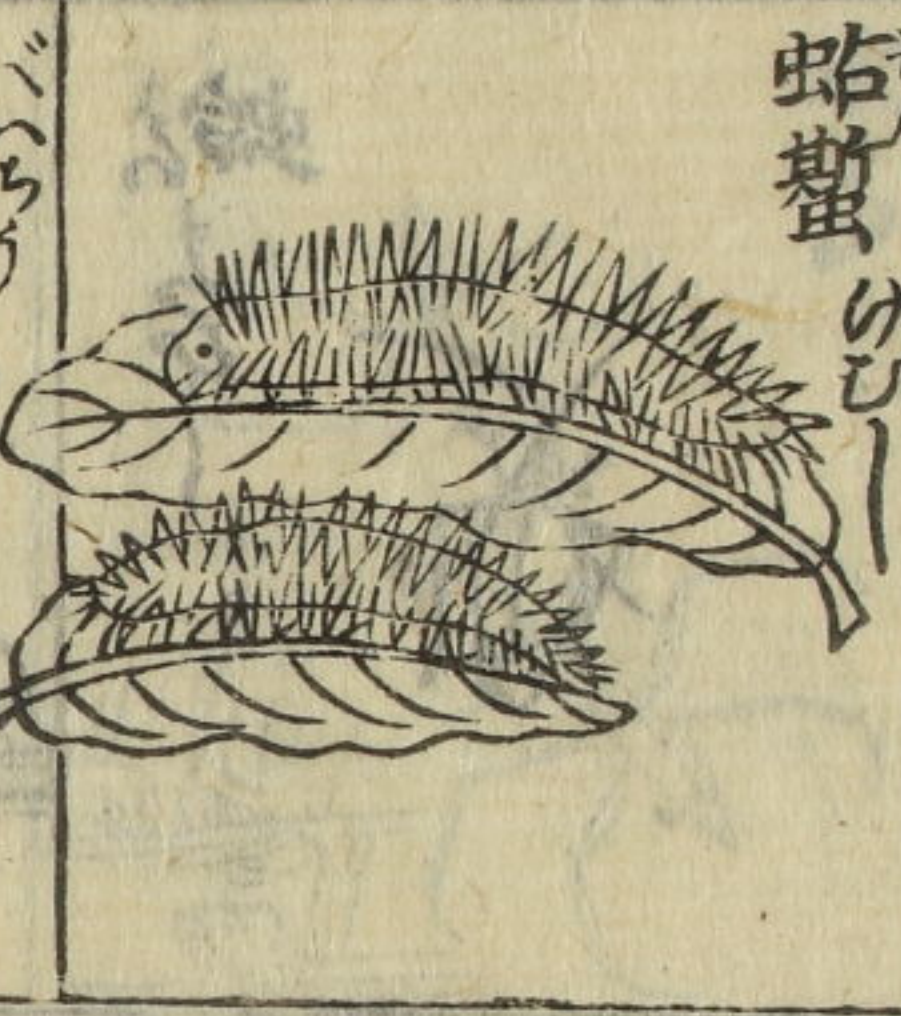
蟬 蟬のいひ

米のうらに生

ど俗さこころ

かろういふ

蟻同



芋 芋のいひ

芋のいひ

芋のいひ

芋のいひ

屎蛆 屎蛆のいひ

屎蛆のいひ

芋のいひ



頭書増補訓蒙圖彙卷之十六

未穀

け部に五穀の類をて

稷

○稷のいひ

○稷のいひ

○稷のいひ

稷 草稻晚稻



稷 稷のいひ



稷

○稷のいひ

○稷のいひ

○稷のいひ

稷 稷のいひ



稷



○櫻ハ毛トシ
不感ニシカモ
燃レドクニ中ト
新ノ骨ト利シ血
と紫ノ暑ト解

○栗ハ腎氣ト
多クハ脾胃ト熱
少クハ不食ト利
一夏胃ト解

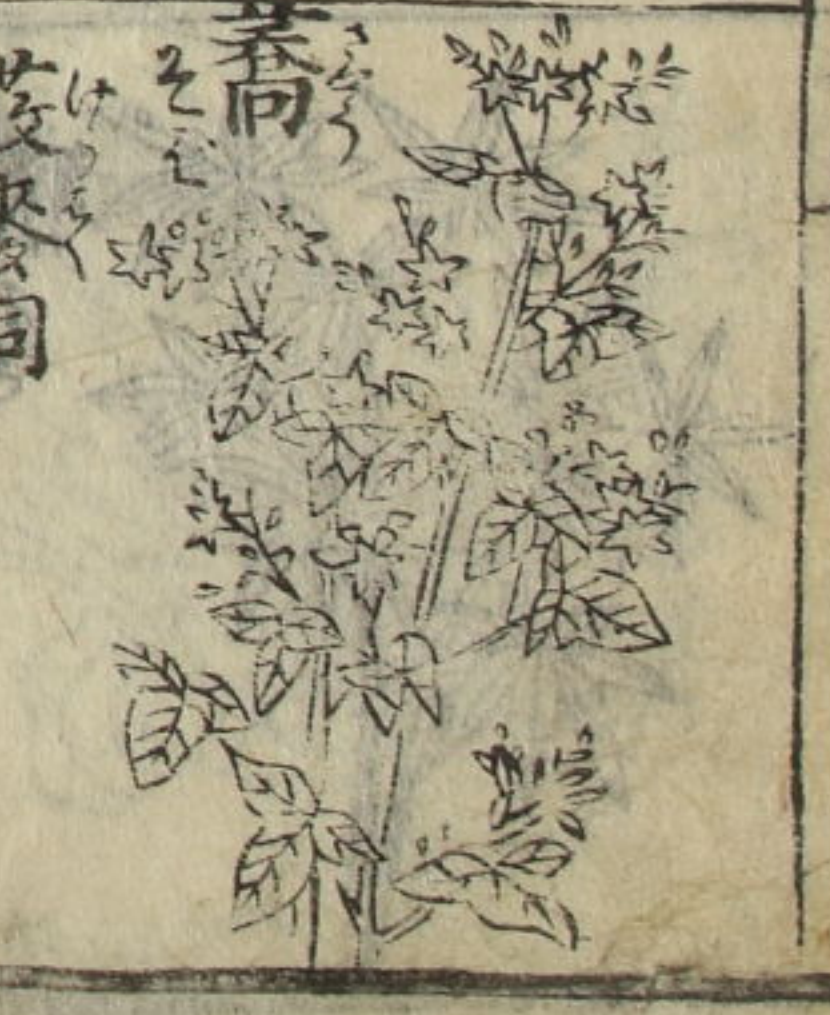
○菽ハ水腫ト
一熱血ト一
脾胃ト一
一酒利ト一
胃中ノ熱ト



○藜ハ腸胃ト
一氣カト一
一積滯ト一
と化一熱腫凡
痛ト消ト

○麥ハ虚ト
一血脈ト一
一五臓ト一
一六腑ト一
一益ト一

○藜ハ熱ト
一熱毒ト一
一解ト一
一利ト一
一腫ト一
一瀉ト一



○稻ハ天同ク
一稔ハ一
一苗ハ一
一又苗代
ト一

○蕪ハ
一ハ一
一ハ一
一ハ一
一ハ一

○苽ハ
一ハ一
一ハ一
一ハ一
一ハ一



○藜ハ
一ハ一
一ハ一
一ハ一
一ハ一

○藜ハ
一ハ一
一ハ一
一ハ一
一ハ一

○藜ハ
一ハ一
一ハ一
一ハ一
一ハ一



頭書增補訓蒙圖彙卷之十七

菜蔬 菜部 菜蔬のをくひとらふ

蕪

○蕪 へ 胃熱との

やれ中とあつめ
虚とがさあひら
のつらまう

蕪

○蕪 へ 水気と

胃中とつらめ
虚とがさあひら
のつらまう

蕪 豊本同



蕪 同



○蕪 へ 肺と熱
虚とがさあひら
のつらまう

蕪

○蕪 へ 肺と熱
虚とがさあひら
のつらまう

蕪

○蕪 へ 肺と熱
虚とがさあひら
のつらまう

蕪 蕪



蕪 蕪



○蕪 へ 胃熱との
やれ中とあつめ
虚とがさあひら
のつらまう

蕪

○蕪 へ 胃熱との
やれ中とあつめ
虚とがさあひら
のつらまう

蕪

○蕪 へ 胃熱との
やれ中とあつめ
虚とがさあひら
のつらまう

蕪



蕪 同



蕪



○蕪 へ 肺と熱
虚とがさあひら
のつらまう

蕪

○蕪 へ 肺と熱
虚とがさあひら
のつらまう

蕪

○蕪 へ 肺と熱
虚とがさあひら
のつらまう

蕪 水部同



蕪



蕪



○蕈の
あつちのこた丸
と利一癩と治す

芋

○芋の腸胃とゆ
熱とろ湯と
胃とろ

蕈

○蕈の腸胃とゆ
熱とろ湯と
胃とろ



○蕈の宿血とマ
けり胃とろ丸
血とろ丸

○蕈の熱とろ丸
水通と利一丸
の不足と治す

○蕈の熱とろ丸
水通と利一丸
の不足と治す



○蕈の腸胃とゆ
熱とろ湯と
胃とろ

蕈

○蕈の熱とろ丸
水通と利一丸
の不足と治す

蕈

○蕈の熱とろ丸
水通と利一丸
の不足と治す



○蕈の熱とろ丸
水通と利一丸
の不足と治す

蕈

○蕈の熱とろ丸
水通と利一丸
の不足と治す

蕈

○蕈の熱とろ丸
水通と利一丸
の不足と治す



○此のくまてお
はとつうしつと
まの薬とのぞら
大場とあつても
羊角丸



○辨
のりらのをこ
のり薬のり
のり脈壺
野と活を



○熟
のりらのをこ
のり脈壺
野と活を



○藜荷
あつり必出蛇毒
と解をこく合
へし脚の利わす



○獨活
のりらのをこ
のり脈壺
野と活を



○紫萸
あつり必出蛇毒
と解をこく合
へし脚の利わす



○紫萸
あつり必出蛇毒
と解をこく合
へし脚の利わす



○紫萸
あつり必出蛇毒
と解をこく合
へし脚の利わす



○紫萸
あつり必出蛇毒
と解をこく合
へし脚の利わす



○紫萸
あつり必出蛇毒
と解をこく合
へし脚の利わす



○紫萸
あつり必出蛇毒
と解をこく合
へし脚の利わす



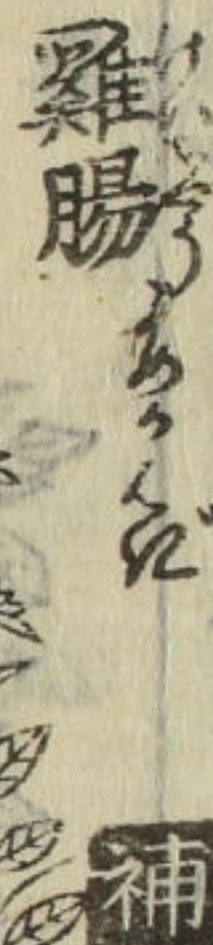
○紫萸
あつり必出蛇毒
と解をこく合
へし脚の利わす



補英 乳癰
 水腫 汁に
 之を 飲すと
 一 漸くと散



雞腸 毒瘡



○ 雞腸 毒瘡
 と液 一 二 三 四
 い ちり ちり ちり
 人 小 登 あり

○ 著蕒 虚と

○ 著蕒 虚と

○ 著蕒 虚と
 お ぎ の 気 力 と
 一 陰 と 一 陽 と
 一 陰 の 一 陽 と 一 陽 の 一 陰 と



○ 野馬 小 丸
 と 利 一 濁 と あり
 氣 と 一 一 の
 つ 入 と の 一 濁 と あり
 と あり



馬 花

○ 馬 花 一 丸
 一 濁 と あり
 一 濁 と あり
 一 濁 と あり
 一 濁 と あり



○ 牛 房 中 丸

○ 牛 房 中 丸
 一 濁 と あり
 一 濁 と あり
 一 濁 と あり
 一 濁 と あり



○ 山 葵 一 丸
 の 一 濁 と あり
 の 一 濁 と あり
 の 一 濁 と あり
 の 一 濁 と あり



胡 葱 中 丸

○ 胡 葱 中 丸
 の 一 濁 と あり
 の 一 濁 と あり
 の 一 濁 と あり
 の 一 濁 と あり



昆 布 一 丸

○ 昆 布 一 丸
 の 一 濁 と あり
 の 一 濁 と あり
 の 一 濁 と あり
 の 一 濁 と あり



○ 野 馬 中 丸
 の 一 濁 と あり
 の 一 濁 と あり
 の 一 濁 と あり
 の 一 濁 と あり



燕 窩 一 丸

○ 燕 窩 一 丸
 の 一 濁 と あり
 の 一 濁 と あり
 の 一 濁 と あり
 の 一 濁 と あり



天 葵 中 丸

○ 天 葵 中 丸
 の 一 濁 と あり
 の 一 濁 と あり
 の 一 濁 と あり
 の 一 濁 と あり



同

○ 絲瓜 皮と下
しそくくんとふ
元種のおうとふ
ひくし熱とど
元勝と利と



○ 鹿角 凡そと
くし小兒の骨蒸
勞熱とばし熱の
熱と解と



○ 醬瓜 瓜と
○ 醬瓜 瓜と
種し中とを
ひれと解と



○ 石花 上焦の
浮熱と下焦の
の虚寒とらと



○ 胡瓜 瓜と
○ 胡瓜 瓜と
瓜と解と
瓜と利と
瓜と解と



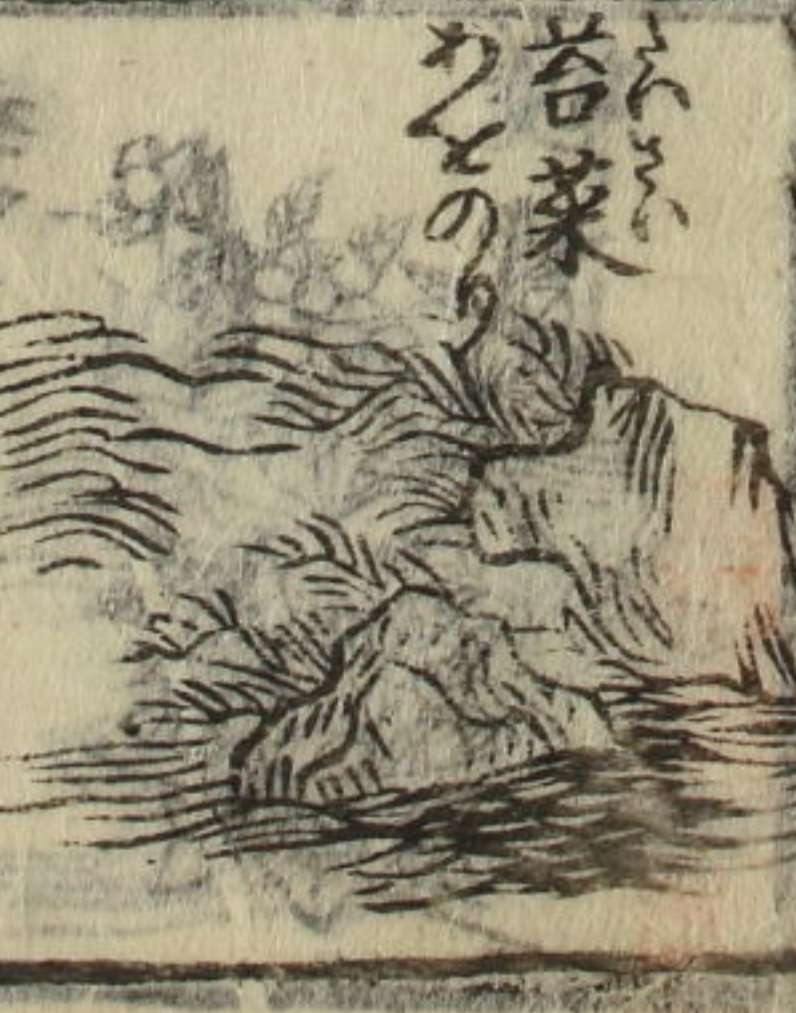
○ 石耳 凡そと
くし小兒の骨蒸
勞熱とばし熱の
熱と解と



○ 海帶 凡そと
うり水と解と
のりんと解と
えのりんと解と



○ 海菜 凡そと
くし小兒の骨蒸
勞熱とばし熱の
熱と解と



○ 水松 凡そと
くし小兒の骨蒸
勞熱とばし熱の
熱と解と



○ 木耳 凡そと
くし小兒の骨蒸
勞熱とばし熱の
熱と解と



○ 狗脊 凡そと
くし小兒の骨蒸
勞熱とばし熱の
熱と解と



○ 車前 凡そと
くし小兒の骨蒸
勞熱とばし熱の
熱と解と



頭書増補訓蒙圖彙卷之十八

果蔬 此部はらんごのく
たぐひをらう

○梅ハケイコウ

○桃ハ生ハんふ
益仁ハ疾
とんハ大ハん
とつハ

桃

○梨ハ熱嗽と
方湯とハ疾
と湯ハ火と
肺とハやす
来ハん

梨

○梨ハ熱嗽と
方湯とハ疾
と湯ハ火と
肺とハやす
来ハん

茶

○茶ハ小豆ハんと
利ハ疾と
と湯とハ疾
と湯とハ疾
と湯とハ疾

梅



桃



梨



来



茶



○梅ハ生ハんふ
益仁ハ疾
とんハ大ハん
とつハ

○梨ハ熱嗽と
方湯とハ疾
と湯ハ火と
肺とハやす
来ハん

李

○梨ハ熱嗽と
方湯とハ疾
と湯ハ火と
肺とハやす
来ハん

椒

○椒ハ凡物ハ
とのぞハ中
とつハ

柚

○柚ハ合ハ
と湯ハ疾
と湯ハ疾
と湯ハ疾

梅



桃



梨



来



柚



紅印

○赤い中焦を
らての不足の
とをいふ人脾を
和しきよさう
と治す

○赤い脾胃と
やうの津液を
心腹のむく
うり心脾をさす

○赤い気と
腸胃とをさす
とをいふ人腰
とをいふ人
とをいふ人
とをいふ人



○赤い腸胃の
りの熱毒を利
にこく湯とす
今んと利す

○赤い消滯と
り胃とをいふ
のうさうとす

○赤い大丹と
つうしもの
久とすりんと
際を脾胃とす
のうさうとす



○赤い脾胃と
腸胃とをさす
とをいふ人腰
とをいふ人
とをいふ人

○赤い脾胃と
腸胃とをさす
とをいふ人腰
とをいふ人
とをいふ人

○赤い脾胃と
腸胃とをさす
とをいふ人腰
とをいふ人
とをいふ人



○赤い脾胃と
腸胃とをさす
とをいふ人腰
とをいふ人
とをいふ人

○赤い脾胃と
腸胃とをさす
とをいふ人腰
とをいふ人
とをいふ人

○赤い脾胃と
腸胃とをさす
とをいふ人腰
とをいふ人
とをいふ人



仁
仁は、その木の
うらたから取り出し
仁は、杏仁
手より取り

核
核は、桃の
さなかり葉子
りらんと

葡萄
葡萄は、その
うらたから取り出し
腸間の水とのぞ
たえく念へて
取とくも



柑梅
柑梅は、その木の
うらたから取り出し
酸中は、二枚あり

香梅
香梅は、その木の
うらたから取り出し
酸中は、その木の
うらたから取り出し

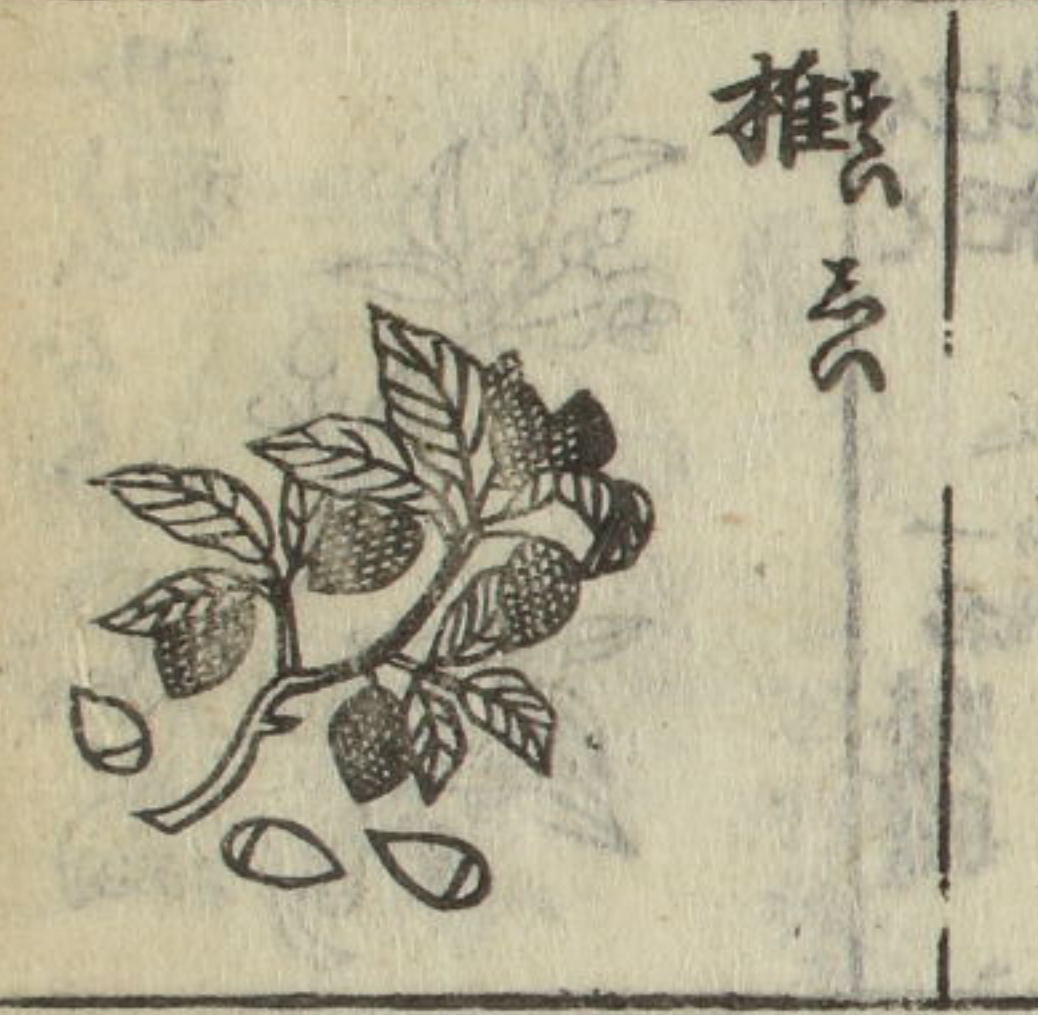
蘇支
蘇支は、その木の
うらたから取り出し
酸中は、その木の
うらたから取り出し



銀杏
銀杏は、その木の
うらたから取り出し
酒と解し、痰
ととく、虫ととく
ととく、虫ととく
小使ととく

金柑
金柑は、その木の
うらたから取り出し
うらたから取り出し
うらたから取り出し

梅
梅は、その木の
うらたから取り出し
うらたから取り出し
うらたから取り出し



蘇支
蘇支は、その木の
うらたから取り出し
酸中は、その木の
うらたから取り出し

蘇支
蘇支は、その木の
うらたから取り出し
酸中は、その木の
うらたから取り出し

蘇支
蘇支は、その木の
うらたから取り出し
酸中は、その木の
うらたから取り出し

蘇支
蘇支は、その木の
うらたから取り出し
酸中は、その木の
うらたから取り出し

蘇支
蘇支は、その木の
うらたから取り出し
酸中は、その木の
うらたから取り出し

蘇支
蘇支は、その木の
うらたから取り出し
酸中は、その木の
うらたから取り出し



○胡蘆の木部
と治す
へくす



○枇杷の木部
と治す
へくす



○枇杷の木部
と治す
へくす

枇杷の木部

○枇杷の木部
と治す
へくす



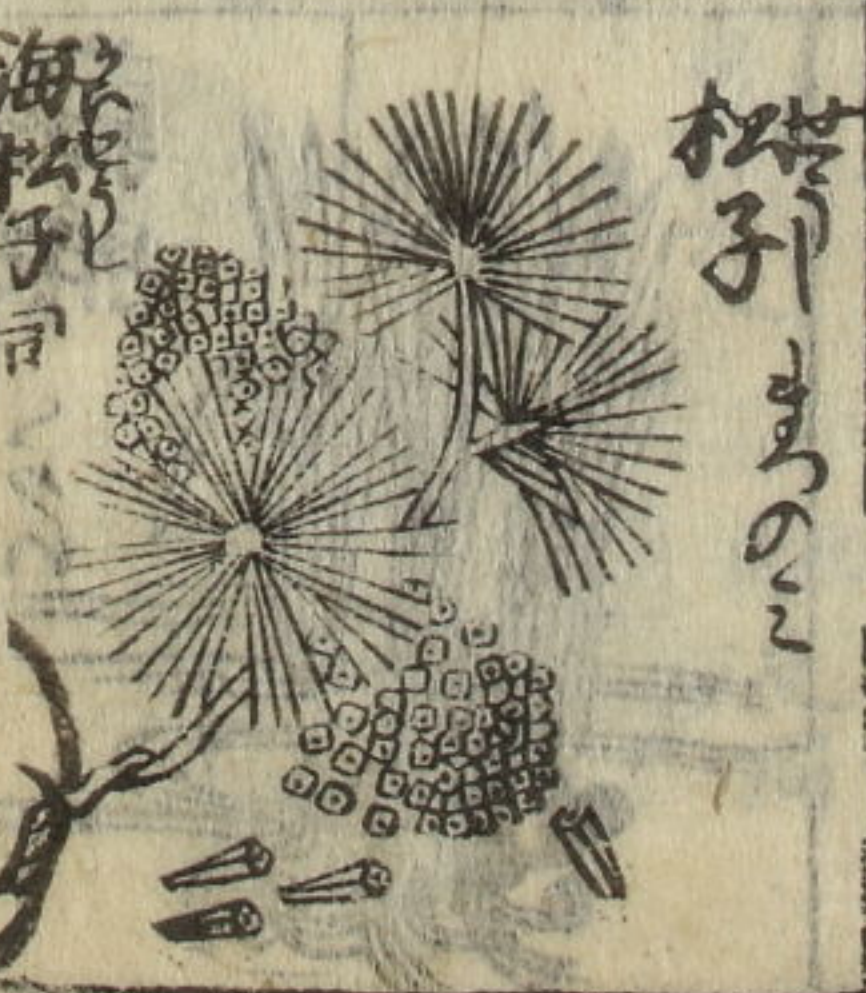
○枇杷の木部
と治す
へくす



○枇杷の木部
と治す
へくす



○枇杷の木部
と治す
へくす



○楳榔の木部
と治す
へくす



○龍眼の木部
と治す
へくす



○燕覆の木部
と治す
へくす



○枇杷の木部
と治す
へくす



○枇杷の木部
と治す
へくす



○枇杷の木部
と治す
へくす



○枇杷の木部
と治す
へくす



